

だい ぶんかつ みんえい か そ し  
第 2 の分割・民営化阻止を

まん にん い か けつごう あ べ だ とう せんそうこっかいふんさい  
1 0 0 0 万人の怒りと結合し安倍打倒・戦争国会粉碎しよう

みんしゅろうそう れんたい しゅうかい  
民主労総ゼネスト連帯 6・28 集会へ

ぜんがくれん よ こっかいほう い とうそう あん ぼ せんそうほうあん あ べ せいけん たい  
全学連が呼びかけた 6・15 国会包囲闘争は、安保＝戦争法案と安倍政権に対す  
いか と はな しゅうじつ たたか あつとうてき う ぬ がつ えきぜんめん  
る怒りを解き放ち、終日の闘いとして圧倒的に打ち抜かれた。7 月 J R 駅全面  
がいちゅう か こうげき あん ぼ せんそうほうあん ふんさい ぜんこく どうろうそうれんごう けんせつ  
外注化の攻撃と安保＝戦争法案を粉碎し、全国に動労総連合を建設して、ゼネ  
じつげん かくめい しゅうり き ひら みんしゅろうそう  
スト実現からプロレタリア革命の勝利を切り開こう。6・28 民主労総ゼネスト  
れんたいだいしゅうかい せんそう かいけん そ し だいしゅうかい そうけつしゅう せんそうぜったいはんたい  
連帯大集会と戦争・改憲阻止 7・5 大集会に総結集しよう。戦争絶対反対の  
せんまんにん い か そ しき あ べ せいけん だ とう  
1 千万人の怒りを組織し、安倍政権を打倒しよう！

が づ えきぜんめんがいちゅう か てんせき かい こ ぜったい そ し  
7 月 J R 駅全面外注化＝転籍・解雇絶対阻止を

が づ こくてつけせん き じく あん ぼ こっかいけつせん みんしゅろうそう れんたい  
6～8 月は国鉄決戦を基軸としながら、安保国会決戦や民主労総ゼネスト連帯  
だいけつせん れんぞく どう はんどう げきとつ あ  
をはじめ大決戦の連続である。それは動と反動が激突しせめぎ合う、すさまじい  
し とうせん せんまんにん い か かた けつごう かくめい せ  
死闘戦である。1 千万人の怒りと固く結合し、ゼネストとプロレタリア革命へ攻  
のぼ ろうどうしゃ かくきょうどう すす みち  
め上ることこそ、労働者と革共同の進むべき道だ。

とうめん が づ えきぜんめんがいちゅう か そ し たたか かくめい  
とりわけ当面する 7 月 J R 駅全面外注化阻止の闘いこそ、プロレタリア革命  
せい ひ だいけつせん がつついたち ひがし に ほん ち ば てつどう  
の成否をかけた大決戦である。7 月 1 日から J R 東日本が千葉鉄道サービス (C  
み と てつどう たかさきてつどう がいちゅう か  
T S)、水戸鉄道サービス (M T S)、高崎鉄道サービス (T T S) に外注化し  
えきぎょう む ひがし に ほん べつかいしゃ  
ていた駅業務が、J R 東日本ステーションサービス (J E S S) という別会社  
さいへん ぶんかつ えきぎょう む にな ろうどうしゃ  
に再編・分割される。C T S、M T S、T T S で駅業務を担っていた労働者に  
てんせき きょうせい がいちゅう か てんせき あら だんかい  
は J E S S への転籍が強制される。J R の外注化は「転籍」という新たな段階

は い ろうどうじょうけん ねん め ねん め ねん め せんえん せんえん  
に入る。J E S S の労働条件は、5 年目、10 年目、15 年目に 5 千円から 8 千円  
てい き しょうきゅう かい  
の定期昇給が 3 回あるだけだ。

ろうどうしゃ てんせき たいしよく かい こ せま おおはばちゃん さ きょうせい  
労働者に「J E S S への転籍か、退職（解雇）か」を迫り、大幅賃下げを強制  
ぜったい ゆる えき ぜんめんがいちゅう か ぜんえき たいしょう えき  
することは絶対に許せない。駅の全面外注化は J R 全駅が対象になっていく。駅  
ひがし にほん しゃりょう けん さ しゅうぜん おこな しよく ば ひがし にほんうん ゆ  
だけではない。J R 東日本は、車両の検査修繕を行う職場も J R 東日本運輸  
さいへん ひがし にほん しゅつこう  
サービス（J E T S）に再編しようとしている。J R 東日本から C T S に出向  
ろうどうしゃ こん ど てんせき もんだい  
になっている労働者に、今度は J E T S への転籍が問題になるということだ。

ひがし えきぜんめんがいちゅう か とつ ぽ こう しゃしょう うんてん し ふく てつ  
J R 東はこの駅全面外注化を突破口に、車掌や運転士も含めたすべての鉄  
どうぎょう む ぶんしゃ か がいちゅう か ねら だい ぶんかつ みるい か こう  
道業務を分社化・外注化することも狙っている。まさに第 2 の分割・民営化攻  
げき ほんかく か  
撃の本格化だ。

ぜんろうどうしゃ ひ せい き こよう つ お だいこうげき ぜんめんがい  
これは J R の全労働者を非正規雇用に突き落とす大攻撃である。J R 全面外  
ちゅう か てつどう ゆ そう あんぜん さい ご てき ほうかい ろうどうしゃじんみん いのち だいもん  
注化は鉄道輸送の安全を最終的に崩壊させる。労働者人民の命がかかった大問  
だい ぜんめんがいちゅう か こくてつぶんかつ みるい か しゃかい  
題だ。しかも全面外注化は J R だけにとどまらない。国鉄分割・民営化は社会  
ぜんたい みるい か ひ せい き しよく か ぜんいんかい こ しんがいしゃ  
全体に民営化・非正規職化をもたらした。「いったん全員解雇、新会社による  
せんべつさい こよう こくてつがたかい こ ほうしき おお ろうどうしゃ おそ  
選別再雇用」という「国鉄型解雇方式」が多くの労働者に襲いかかった。

ひがし てつどう じ ぎょう ぶんしゃ か がいちゅう か ろうどうしゃ てんせき かい こ てい  
J R 東が鉄道事業のすべてを分社化・外注化し、労働者を転籍と解雇、低  
ちんざん ひ せい き こよう つ お ぜんろうどうしゃ おな こうげき おそ  
賃金と非正規雇用に突き落とすことは、全労働者にそれと同じ攻撃が襲いかかる  
い み じ ち たいまる みるい か ゆうせい きょういく そう ひ せい き しよく か いっ き  
ことを意味する。自治体丸ごと民営化や、郵政や教育の総非正規職化も一気に  
げき か こくてつぶんかつ みるい か ろうどうしゃ は けんほうせいてい いったい おこな がつ  
激化する。国鉄分割・民営化が労働者派遣法制定と一体で行われたように、7 月  
えきぜんめんがいちゅう か どう じ しょうがい は けん しょうがい ひ せい き こよう きょうせい ろうどうしゃ は  
J R 駅全面外注化と同時に「生涯派遣」「生涯非正規雇用」強制的労働者派  
けんほうかいあく こっかい きょうこう  
遣法改悪が、国会で強行されようとしている。

き せいかいかくかい ぎ がつ にち かい こ きんせんかいけつきん せい どうにゅう どうしん き  
さらに規制改革会議は 6 月 16 日、「解雇の金銭解決金」制度導入の答申を決  
あ べ せいけん ていしゅつ かね はら ろうどうしゃ かい こ かい こ じ ゆう だいこうげき  
め、安倍政権に提出した。金を払えば労働者を解雇できる「解雇自由」の大攻撃

だ。安倍は J R 資本を先兵に全労働者への解雇自由・総非正規職化に踏み切った。その最大の激突点が 7 月 J R 駅全面外注化攻撃だ。

動労総連合の建設で産業報国会化うち破れ

安倍政権・J R 資本による駅全面外注化と解雇自由・総非正規職化の攻撃は、常磐線全線開通による福島圧殺・帰還強制攻撃や安保＝戦争法案・改憲攻撃と一体だ。日帝・安倍の狙いは、J R 全面外注化や解雇自由攻撃で労働運動を解体し、戦争・改憲・徴兵制や原発を推進する帝国主義労働運動を軸に「産業報国会」をつくることにある。

その最大の焦点が、動労千葉や動労水戸への解体攻撃である。ブルジョアジエの雑誌『選択』5月号は、動労千葉を「J R 東の鬼っ子、癌（がん）」と名指しし、「排除できない会社の問題がある」などと、動労千葉を解体すべきだと叫んでいる。これは逆に言えば、動労千葉や動労水戸の闘いこそが今や階級的主流派であり、国策を破綻に追い込み、J R 資本と日帝・安倍＝葛西らを恐怖のどん底にたたき込んでいるということだ。

絶対反対と階級的団結で闘う階級的労働運動が、民営化・外注化、総非正規職化や、戦争・改憲、辺野古新基地建設、原発再稼働、そして賃下げ・生活破壊に怒る労働者人民と結合したとき、ゼネストやプロレタリア革命が現実のものとなる。このことに敵は震え上がっている。

7 月 J R 駅全面外注化は、J R 体制の最後の崩壊と、青年労働者を先頭にした全 J R 労働者の怒りの決起を必ず生み出す。この階級的な怒り・決起と結びつき、動労千葉の反合理化・運転保安闘争路線と、動労水戸の被曝労働絶対反対

の闘いを、すべての J R 職場とともに闘い、動労総連合を東京一全国に建設し、絶対に勝利を開こう。

さらに国鉄決戦と一体で、自治体・教労・郵政をはじめ全産別で、階級的労働組合を打ち立てよう。動労総連合と合同・一般労組全国協を先頭に、ストライキで闘える労働組合をつくり、ゼネストと革命へ進もう。

この間、青年労働者を先頭に労組権力獲得に向け組合役員選挙が全国で闘われている。階級的労働運動派が外注化・非正規職化絶対反対、戦争法案絶対反対で立候補していることに、体制内執行部は「絶対反対を叫んでいても進みません！」なるビラをまき、敵対している。だが安倍政権や資本の攻撃に対し、絶対反対で闘う以外に労働者人民の未来はない。しかも動労千葉や動労水戸が示しているように、絶対反対の闘いでこそ労働者は無限の力を爆発させ、階級的団結をつくり出すことができる。安倍政権やブルジョアジーが一番恐れているのは、労働者人民が絶対反対で立ち上がることなのだ。

資本・当局や体制内執行部と絶対反対を貫いて闘う党派闘争こそ、職場の労働者の怒りと結びつき、階級的団結を組織する力となる。労働者は絶対反対で闘う労働組合を求めている。自分の職場で断固闘いぬこう。

日本経済破滅は不可避 安倍は必ず打倒できる

7 月 J R 駅全面外注化阻止を先端とする職場での資本との絶対反対の激突は、韓国・民主労総ゼネストと連帯する闘いであり、戦争法案を阻止する力だ。職場で仲間を組織し 6・28 集会と 7・5 集会に大結集しよう。

安保法制をめぐって、自分たちが推薦した憲法学者からも「違憲」を突きつけ

られた安倍は追い詰められ、通常国会の会期の大幅延長を画策すると同時に、打倒された橋下らと野合し、維新の党を引き込み、戦争法案の成立強行を狙っている。だがそんな策動など、労働者人民の怒りにさらに激しく火をつけるだけだ。

今や労働者人民は、安倍が言うことなどまったく信用していない。集団的自衛権行使の安保法制は、日本が再び血を流して戦争する国になる歴史の転換点だと感じて、怒りの決起を始めている。しかも日本経済の破滅と崩壊は、今やカウントダウンに入った。国債と株価のバブル崩壊はいつ起きてもおかしくない。

新自由主義と「アベノミクス」の破綻は、日本帝国主義の経済・社会をいたるところで崩壊させ、安倍政権を締め上げている。今や安倍を打倒し、ゼネスト実現とプロレタリア革命勝利の歴史的情勢が到来している。

勝利の道は、動労千葉や動労水戸のような階級的労働組合を、動労総連合の全国的建設の推進を軸に、全産別でつくり出すことだ。職場に根をはった非合法・非公然の労働者党をつくり出すことだ。そのために、機関紙『前進』の購読と、革共同への圧倒的な夏期カンパを心から訴えます。

闘う労働者と学生は革共同に結集し、6～8月の決戦とともに闘おう。